

日本人の単独行動に対する心理と集団意識の関係

F5 班

宮城県仙台第三高等学校

日本人は輪から外れる人に対して協調性がないというなど、異質な存在としてみなす傾向がある。今回はそのような集団意識がはたらく場面や原因を調べることにした。また、それらに対する解決方法も提示する。調査のためにアンケートを実施し、それぞれ状況が異なる三通りの場面において「自分がひとりであるとき」「他人がひとりであるのを見たとき」という二つの視点から各場面における心情を調査した。結果としては、単独行動をするのが自然であるという場面では「特に何も思わない」という回答が多くみられた。しかし、単独行動をする人が少なく、自分だけが単独行動をしているという場面においては単独行動に対して否定的な回答もみられた。またアンケート結果より、単独行動をしている本人は周囲の目を気にしているが、周囲は単独行動をする人を見てもあまり関心を寄せていないことがわかる。ここから、単独行動に悪いイメージを持っているのではなく少数派になることに対して悪いイメージを持ってしまうこと、そして単独行動をする人は過度に周囲の目を気にしてしまうことがわかった。これらの原因としては、日本で昔から行われている「みんな同じことをしよう」という教育方針が挙げられる。集団意識は相互扶助という良い面を持つ反面、同調圧力という問題をも生み出しかねない。このような集団意識とうまく付き合っていくには、たくさんの人と交流を持ち、様々な価値観を知ること、自分の度量を広げていくことが大切である。

1 背景

一人であるということの意味する「ぼっち」という言葉に、多くの日本人が悪い印象を持っている。人間関係を重んずる日本では、単独行動を悪い意味で特別視し協調性の欠如などを問題点としてあげ、否定的な意見を持つ傾向がある。それによって自分や他者の行動や考えを抑圧し、集団から外れた者を異質な存在と見なす場合がある。また田上教授(②)の話によると、日本人に限らず、人間には異質なものを排除しようとする心の働きが備わっているようだ。動物は襲ってくる敵、つまり自身と異なるものに出会ったとき自然と身を守ろうとする。これと同じように、私たちが自分と異なる意見を持つ相手に出会ったとき、その価値観を受け入れると相手に飲み込まれてしまうのではないかと、不安が生じる。その結果、自己を守ろうとす

る防衛本能がはたらいて大人数の意見に賛同し少数派の意見を否定するなどの差別につながってしまうようだ。このことを踏まえて私たちは特に日本人の考え方に注目し、集団意識がどのような状況ではたらくのか、その原因は何なのかを突き止めるとともに、集団意識から生まれるデメリットを解決したいと考えた。

2 材料と方法

本校の生徒及び教員計 68 人にアンケート調査を実施し、「自分が一人であるとき」「他人が一人であるのを見たとき」の二つを軸に、三通りの場面における心情を調査した。

【表 1】自分が単独行動をしているとき

列1	列2	列3	列4
単独行動の対象が自分の時			
状況	受験会場	休み時間の教室	遊園地
最も多い回答 (%)	特に何も思わない (76.4)	特に何も思わない (43.1)	さみしくなる (45.8)
二番目に多い回答 (%)	一人でいられて楽 (13.9)	周りの視線が気になる (27.8)	一人で行かない (33.3)

【表 2】他人の単独行動を見たとき

列1	列2	列3	列4
単独行動の対象が他人の時			
状況	受験会場	休み時間の教室	遊園地
最も多い回答 (%)	特に何も思わない (88.9)	特に何も思わない (68.1)	特に何も思わない (50)
二番目に多い回答 (%)	一人でいられて楽そう (5未満)	自分はこうなりたくない (16.7)	自分はこうなりたくない (34.7)

3 結果と考察

表 1・2 の受験会場の例では、周囲が単独行動をしている状況では自分や他人が単独行動をしている方が寧ろ自然で何も感じず、周囲の目を気にして悪いイメージを持つことが少ないことがわかる。

表 1・2 の休み時間の教室の例では、周囲が単独行動をしていない状況で自分が単独行動をするときは半数以上が周りの目を気にしているが、同じ状況で他人が単独行動をしているときは半数以上が関心を寄せていないことがわかる。

表 1・2 の遊園地の例では、休み時間の教室の例と同じに単独行動をしている人が少ない状況では、自分や他人の単独行動を気にする人の割合が、同じじょう教室の大きいことがわかる。

これらのことから、状況によっては必ずしも単独行動に否定的になるわけではないことがわかる。また、自分の単独行動のときに必要以上に周囲の目を気にしていることも読み取れる。

つまり、一人でいることではなく「少数派」でいることにマイナスなイメージを持っているのではないか。その原因として「みんな同じで

あること」を重視した日本の教育方針があると考えられる(①)。このような集団意識には、相互扶助などのメリットがある反面、同調圧力が強く、少数派に対して否定的になるなどのデメリットがある。

これらを改善するための方法として、「人との距離感を大切にすること」が挙げられる。自分の価値観を相手に押しつけないことがその一例であり、ひとりひとりの心がけが必要となる。様々な価値観を知ること、個性を認め合える社会を築くことが可能になると考える。

4 参考文献

- ①菅野仁著 友だち幻想(ちくまプリマー新書 2008 年)
- ②田上不二夫教授(東京福祉大学・大学院)
- ③磯部智加衣準教授(千葉大学)